

**リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業
第71回会議参加者(8名)アンケート 集計結果**

1. 本事業をどのような経緯で知りましたか。(複数回答可)

JSPSのHP	4	
JSPSのメールマガジン(JSPS Monthly)	0	
JSPSからのメールでの案内	1	
所属機関からの案内	2	
所属学会のHP、メールマガジン	0	
過去のリンダウ会議参加者からの案内	2	
日本人研究者からの案内	2	
外国人研究者からの案内	0	
その他	5	

2-1. リンダウ・ノーベル賞受賞者会への参加は有益でしたか。

はい	8	
いいえ	0	

2-2. 上記のとおり回答した理由した理由は何ですか。

90カ国から集う多様な分野の若手研究者や30名ものノーベル賞受賞者との交流、このスケールで出来るのは本会議だけかと思ます。会議を通して得られた経験や繋がりは今後の研究活動にプラスに働くとします。

自身の研究の方針について、より深く考えるきっかけになったから。

世界からこのような会に参加する研究者と交友関係を築けたから。

数十人のノーベル賞受賞者の方々と実際に会い、これまでの研究人生やサイエンスへの情熱について話を伺い、更に議論する機会までいただけたことは、間違いなく生涯一度の経験であったと感じます。

この会議でしか得られない経験を積むことができた。

3. リンダウ・ノーベル賞受賞者会議に参加して、どのような影響がありましたか。(複数回答可)

学術的な視野が広がった。	7	
通常の国際学会では得られないような助言を受けることができた。	6	
国際的な場で研究活動を行いたい、という希望が強まった。	6	
将来、大学や学会等でリーダーとして活躍したい、という希望が強まった。	5	
共同研究等の持続的な研究交流のパートナーが見つかった。	1	
自身を研究者として受け入れる研究室が見つかった。	0	
webやメールではなく、顔を合わせた議論や交流の重要性を認識した。	7	

4. 他の日本人若手研究者にも本事業への参加を勧めたいと思いますか。

はい	8	
いいえ	0	

5-1. 本事業への申請を検討するにあたり、何か懸念事項がありましたか。

1週間という会期が長い	0	
博士論文の提出予定年度にあたる	0	
指導教員や直属の上司が本会議参加に協力的でない	0	
ラボメイトや同僚が本会議参加に協力的でない	0	
英語能力に自信がない	1	<div style="width: 10%; background-color: #FFD700;"></div>
研究業績に自信がない	0	
本会議の知名度が低い	0	
採用されるまでの競争率が高そう	4	<div style="width: 40%; background-color: #FFD700;"></div>
採用結果が判明する時期が遅い	2	<div style="width: 20%; background-color: #FFD700;"></div>
その他※	1	<div style="width: 10%; background-color: #FFD700;"></div>

※回答: COVID-19の状況が不透明

5-2. 上記の懸念事項をどのように乗り越えて申請を決意したかご記入ください。

まずは申請してみることが大切だと考えていました。研究室の先生方にも好意的にご協力いただきました。

参加への熱意に自信があったため、その思いを申請書に託そうと思い応募しました。

一生懸命申請書を書いた。

堂々と話すことが大事と割り切った。

6. 日本人参加者同士の交流の機会は持てましたか。

はい	8	<div style="width: 80%; background-color: #FFD700;"></div>
いいえ	0	